



す。カゴに入れるクリの重さも堪（こた）

しゃがんで拾うの繰り返しで、  
んで拾い、立って移動して、  
落ちてくるクリをしゃが  
まっています。木の周りに  
当たりが良い斜面に植え  
てあります。

「クリは5m間隔で、日  
当たりが良い斜面に植え  
てあります。木の周りに  
落ちてくるクリをしゃが  
まっています。木の周りに  
当たりが良い斜面に植え  
てあります。」

中津川市福岡、恵那山を望む傾斜地に、  
志津さんのクリ園は広がっている。か  
つては牧草地で、酪農を廃業してから  
長い間使っていなかった土地、60歳を  
過ぎてからクリの栽培を始めたそうだ。  
「栽培を始めて10年になります。8月  
下旬から10月初旬にかけて、毎日一定  
量が収穫できるよう、80アールの樹園  
地に、8種類、約320本のクリを植え  
ています。知人から栽培管理がしやす  
いと聞き始めたのですが、5年目の夏  
の巡回研修で、『クリはよくできている  
けど、これを何人で収穫するつもり？  
夫婦2人で？』と問われ絶句しました。  
クリは拾うだけだから収穫も簡単と思っ  
ていたのだ」と語り始めた志津さん。  
指摘されて初めて収穫が重労働  
であると知ったという。

## 安心して任せています

クリ農家・志津健さん &  
ライクサポート(株)ライクサポート

えます。

収穫ができるようになったころは、  
家族に仕事を休んでもらってなんとか  
収穫できましたが、木が成長して収穫  
量が増えてくるとそれも難しくなりま  
した。天候にも左右されるので、複数品  
種の収穫時期が集中してしまうことも  
ありました。手伝ってくれる人を探し  
たものの、自分と同年代の人しかいない。  
近隣のクリ園が障がい者施設に委託し  
ていると聞けば見学にも行きました。

そんなとき、東美濃クリ地産地消(商  
拡大プロジェクトチーム)(J A ひがし



志津 健さん



みの、恵那農林事務所等)の「収穫作業の負担軽減の仕組づくりについて」のアンケートがあり、「障がい者施設と連携したい。イガと実を分けてくれるだけでもいい」と回答したことがきっかけとなり、市内で就労継続支援A型事業所を運営する(株)ライクサポートに声がかかった。

「制度上、利用者に最低賃金の支給が求められています。事業所内作業だけでは容易ではありません。農業には興味がありましたが、素人で、初期投資も必要なので踏み出せませんでした」と、施設長の瀬藤幸子さん。農業はもちろん農作業の受託も未経験だったが、「とにかくやってみよう。わからないことは教えてもらおう」と受託を決めたそうだ。

ぎふアグリチャレンジ支援センターと恵那農林事務所の仲介で、志津さんと瀬藤さんが顔を合わせ、初めてでもできそうな作業や労賃などを調整した結果、夏季に生理落果した青イガを拾



作業範囲を指示し、取りこぼしがいないか確認

た」とのことです。  
ライクサポートでは、確実に作業を行なうために、作業区画を決めて、作業後、同行している職員が点検してから、次の作業区画に移動するよう工夫したそう。瀬藤さんは、「夏の暑い時期でしたが、作業に従事した利用者さんは『外での作業は働いているという実感があった』、『あ

う作業を行うことになった。志津さんは、「青イガ拾いは、害虫の発生を防ぐための作業です。地味な作業ですが、速さより、取りこぼしなく、確実に拾う必要があります」という。イガを突き通さない作業用の手袋は志津さんが用意したが、仕事の出来栄えと彼らの工夫に驚いた。



実とイガを分けてカゴに入れていく

「最初、ちゃんとできるか心配でしたが、取りこぼしなく、きれいに拾ってくれていて感心しました。何より、作業用手袋をしていても、たまにイガが突き抜けることがあるのですが、『こうすると、突き抜けんよ』と、彼らに教えてもらったのが、作業用手袋の下にゴム手袋をつける方法。彼らが、農家の私たちも思いつかなかった工夫を思いつき、安全に作業をしていたのには驚きました。今では、家族も、そうやって安全に作業しています。ちゃんとできるかと思っていたことが恥ずかしかった」とのことです。

夏に、筑波という品種の収穫をお願いしました。イガに入ったまま実が落果する品種で、イガの割り方をレクチャーし、イガと実を分け、実は温度が上がらないよう木の下の日陰に置くよう指示しただけ。落果して24時間放置されたクリは商品にならないということで、取りこぼしは絶対NGですが、自身は選果作業に従事するため、指示だけして園地をあとにしたのだとか。「数人で1日2時間の作業ですが、目標作業量の4、5割は拾ってくれました。取りこぼしはなく、安心して任せています」。

「彼らを障がい者とは思っていません。朝9時半に来て、大きな声であいさつをしてくれます。その日の収穫範囲を指示したら、あとはお任せ。私は選果作業に行きます。選果を終えて園地に行くと、指示どおり、イガと実の入ったカゴを分け、実はちゃんとクリの木の下に置いてあります。不安は全くありません」。

「他品種の実や、出荷できない実が混じっていても、選果で取り除けるので、あまり気にしません。一般的には、土日の作業に身内が加わるので、月曜日の出荷量突出することが多いのですが、ライクサポートさんの力を借りることで、毎日安定した一定量を出荷できることが何よりです」。利用者と支援員に全幅の信頼を置く志津さんは、今年も収穫期を前に、早々とライクサポートとの打合せを終えた。



指示したとおり実は日陰に置いてある

#### 取材メモ

志津 健さん(中津川市)  
品 目…クリ  
作付面積…約80アール 320本  
ライクサポート(中津川市)  
サービス種別…就労継続支援A型  
運営法人…株式会社ライクサポート